

## 下馬尾滝沢(仮称)

1987年8月2日

L

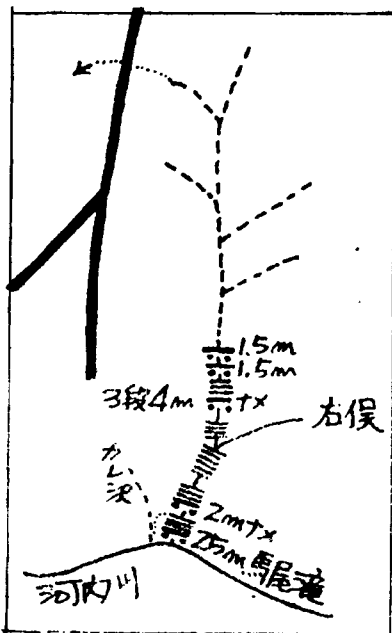
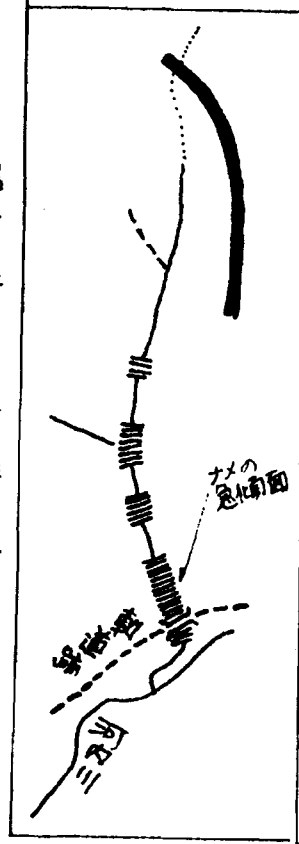
馬尾滝沢(仮称)左俣の遊行終了後、1本下流の下馬尾滝沢(仮称)の下降に移る。源頭は、ササが密生していて歩きづらい。沢に降り立ってもヤブがひどく、何度か足をすくわれる。沢を降りるというよりは、ヤブの上を歩くという感じである。

やがて、所々、川床にナメが現れるようになるが、すぐにヤブに覆われてしまう。悪戦苦闘の末、1時間半程で、ようやくヤブこぎから開放される。

ここから河内川本流は、もうすぐである。長い急傾面のナメ床を慎重に降り、軌道跡の橋をくぐりぬけると、沢は平坦となって、蛇行してから河内川に合流する。

(記・)

[タイム] 下降開始(9:05)→下降終了(10:45)→河内川橋(10:55)



## 馬尾滝沢左俣(仮称)

1987年8月2日

L

河内川橋に車をデポし、本流にそって遊行を開始する。30分程で馬尾滝沢(仮称)出合に到着する。馬尾滝沢は、出合に馬尾滝をかけている。25m程のナメ滝。傾斜はきつく、直登はちょっときびしい。私達は、右岸にあるカレ沢を利用して捲くことにする。途中、だいぶ前に使用されていたと思われる貯水槽があり、上部からワイヤーでもって固定してある。ワイヤーにそってガレ場を登りつめ、馬尾滝の上に出る。

ここから少し遡ると、二俣となる。右俣に入